

## 学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]

### 【学習指導等】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業改善の実現に向け、ICTを活用した授業の活性化や公開授業について、教職員が相互に意見交換を行う対話形式校内研修（しゃべり場）を実施した。
- ・ICTの活用についての肯定的な回答が、教員で54%、生徒では78%となっており、今後の課題として、常設のプロジェクターの設置など環境整備があげられる。

### 【生徒指導等】

- ・頭ごなしの指導ではなく、ルールを「なぜ」守るのかなど、主体的に行動する力の育成に取り組んだが、「学校生活についての先生の指導は納得できる」と回答した生徒は76%にとどまった。今年は新型コロナウイルス感染症に係る感染予防の取組みのなかで、自粛や制限が多かったことが影響したと考える。学校全体の遅刻数も減少するなど、成果が出ている部分を他の行動につなげていきたい。
- ・「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の問いに対する肯定率が、生徒で93%となっており、外部講師を招き実施した講演などの取組みが充実した内容であったことが要因と考える。

### 【学校運営】

- ・新型コロナウイルス感染症に係る影響のため、例年に比べ、地域との連携を図ることが難しい状況であったが、ホームページの積極的な活用により、教育活動の様子など広報した。ホームページやメルマガの利用についての肯定率が保護者で84%となり、昨年度から大幅に増加した。
- ・「教育活動について、教職員間で日常的に話し合っている」と回答した教職員が67%にとどまっており、日常的に教職員が相互に高め合う職場をめざすとともに、全体の資質向上に向けて、取り組んでいきたい。